セミナーの記録

マオリ現代パーフォーマンスの展望

「私たちはどこから来たのか、 誰の土地の上に立っているのか」

2023年8月30日（水）18：00～22：00

〈1日目〉

「講師2名によるレクチャーと質疑応答」

■はじまりの儀式・歓迎のことば

講師であるブライア・グレイス・スミス氏、タネマフタ・グレイ氏の提案により、主催者が先に会場に待機し、講師とレクチャー参加者が共に列になって会場に入場する「はじまりの儀式」が実施された。

会場であるゴコクジスタジオ内に、実行委員、コーディネーター、国際部長が待機する中、通訳者がマオリ語で先導しながら前室より入場。続いて、ブライア・グレイス・スミス氏が参加者とタネマフタ・グレイ氏を後続に引き連れて入場する。

＜実行委員・山上優　あいさつ＞

○**山上**　国際演劇交流セミナー2023「ニュージーランド特集」にお集まりいただきありがとうございます。企画をしました山上優と申します。当初、2019年実施の予定でしたが、講師のスケジュールなどで一度は頓挫し、今年度改めての企画実施となりました。国際演劇交流セミナー事業始まって以来、初めての「ニュージーランド特集」であると同時に、コロナ禍によって2020年からはオンラインとなっていた当該事業の、4年ぶりの「対面」での念願の実施となります。

続けて、実行委員・コーディネーター（コリンズ紀子さん／ニュージーランド、オークランド在住）・通訳補（アンさん／日本在住17年）の紹介、「ハラスメント防止対策」についてのアナウンス、ビデオ・写真撮影についてのアナウンスがされた。

（マオリの儀式の一環として）主催者側が全員起立し、日本の童謡「赤とんぼ」を歌う。

＜国際部長・佐川大輔　あいさつ＞

○**佐川**　国際部長をしております、佐川大輔と申します。本日は皆さまようこそ。講師のお二方、ようこそ日本へおいで下さいました。

歌を歌うということなので「どんぐりころころ」を歌いたいと思います。よろしくお願いします。

主催者側の面々が全員起立し、日本の童謡「どんぐりころころ」を歌う。

○**山上**　ではここからアンさんに、通訳をお渡ししますね。スタートします。

タネマフタ氏によるマオリ語での開始の言葉、マオリの歌が披露される。
（参加者に歌詞カードが配られた）

プレア　ネイ（Purea Nei）

プレア　ネイ　エ　テ　ハウ
ホロイア　エ　テ　ウワ
フィティフィティア　エ　テ　ラ
マヘア　アケ　ナ　ポラルラル
マケレ　アナ　ナ　ヘレ

エ　レレ　ワイルア　エ　レレ
キ　ナ　アオ　オ　テ　ランギ
フィティフィティア　エ　テラ
マヘア　アケ　ナ　ポラルラル
マケレ　アナ　ナ　ヘレ（×2）

タネマフタ氏による「祈り（カラキア）」。
タネマフタ氏の指示で、椅子を移動して円になり座る。

○通訳者　カラキア（祈り）をしました。参加者の皆さんと、この土地（※富士山、隅田川を示していた)の神様との繋がりについての祈りです。ニュージーランドではマザーアースと言って、胎盤と同じ意味なんですけど、私たちは土地と繋がっているという考え方があります。先祖とここにいる皆さんとの繋がりもあります。コロナ禍の後に来ていただき、ありがとうございます。私たちは日本に招かれてとても光栄です。皆様に感謝します。

○タネマフタ　今この同じ部屋にいる私たちの遠い先祖は繋がっている、という考え方をします。マオリの自己紹介では自分に縁のある山、川（マオリ語では「アワ」と言います）を伝えます。

どのようにしてここへ来たか（移動手段、例えば船なのか飛行機なのか)、どのような経緯で今日ここへ来ているか、どこの出身かをそれぞれ話していきます。自己紹介をすることで、もしかしたら、先祖や家族が繋がりがあったと分かるかもしれません。

ニュージーランドでは「ファカパパ」と言って、先祖にさかのぼって紹介することで、繋がり（コネクション）を発見したり、より信頼を強めることができるのです。

■マオリ式の自己紹介

○**タネマフタ**　（山の名前、川の名前、出身の地域を話す）

○**ブライア**　（同様に話したのち）劇作家、俳優、映画監督です。

参加者・実行委員・スタッフがひとりずつ、名前、出身地、自分に縁のある山、川の名前、このワークショップに期待することなどを短く話す。

○**コーディネーター**　（自己紹介ののち）初めに皆さんが体験した「カランガ」という儀式はマオリのヴィレッジに行かないと体験できない儀式で、貴重な体験をされたと思います。マオリは織物と関係が深く、人の人生を織り込むという意味合いもあります。

タネマフタ氏とブライア氏がマオリの挨拶「ホンギ」を実演する。

○**タネマフタ**　これは「呼吸を交換し合う」挨拶です。そこには先祖までさかのぼって挨拶を交わす、という意味もあります。タネマフタという名は神の名のひとつ、72人の兄弟が協力して土地を女性の形にかたちづくった。それがホンギによって生命を吹き込まれたとされます。

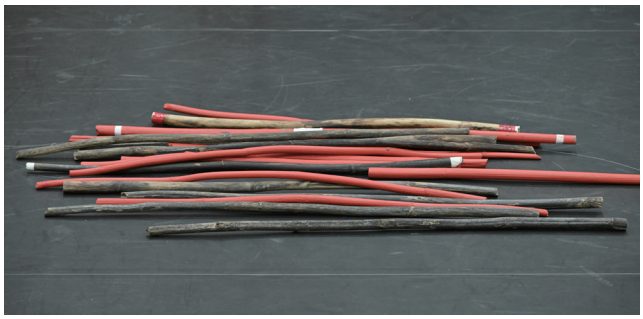
また、マオリの神話の中では「ファカパパ」が動物、植物を創生したとされています。（編集注：ファカパパは通常「系図」と訳されるが、血縁だけでなく、部族、自然界の生物と非生物、世界の創造や宇宙との関わりをも含む概念。マオリのアイデンティティーの重要な柱になっている。）

○**タネマフタ**　マオリの考え方として、ホンギをすることで自分たちのバックグラウンドも交換し合う、という意味合いがあります。神の創造物、祖先をシェアする概念です。

ここまでのセッションを終了するためのカラキア（祈り）をします。立ってください。

全員起立し、祈りの時間。
※以降、ひとつのセッションが始まるとき、終わるときには必ずカラキア（祈り）が行われる。

■コーラリ体験



※「コーラリ」と呼ばれる棒を使ったマオリの伝統的な武道形態。コーラリは、床からへその位置くらいまでの長さの、植物からなる細い棒。このセミナーでは、棒の名称としてだけでなく、それを使ったマーシャル・ダンスも、同じように「コーラリ」と呼んでいた。

全員、円になって床に座る。

○**タネマフタ**　コーラリ（棒）はニュージーランドの伝統的な植物「ハラケケ（亜麻）」の花の茎から造られています。ハラケケは長い葉を持つ長木で、トゥイ（ニュージーランドの鳥）がハラケケの先端にある種をついばみます。ハラケケの種を食べたトゥイが糞をして、ハラケケが分布し、ニュージーランド中にたくさん増殖することになります。コーラリの動きはこの鳥の動きから派生しています。

コーラリを行う上での注意事項をお話します。

1. コーラリは神聖なものなので、コーラリを持ってものを食べたりしない。
2. コーラリを持ったままトイレに行かない。
3. コーラリを落とさない。
4. 本来儀式で使用するコーラリはもっと長いもので、今回持参したものは練習用。しかし、先祖と同等に、神聖なものとして扱う。
5. コーラリを投げることはしない。丸腰になってしまうことを意味する。
6. コーラリは裸足になって行う。

1人1本ずつ、コーラリを選ぶ。
円になって、タネマフタ氏によるカラキア（祈り）を行う。

＜コーラリを使った「ンガトフトフ」の実演＞

タネマフタ氏が無言のまま、動作のみでコーラリを使った動きの型を指導する。コーラリの持ち方、構え方、一連の動き、間違いを指摘するときも全て言葉を使わずに、約30分間、参加者に実演指導する。

○タネマフタ　一番最初に学ぶ、「ンガトフトフ」（上下左右の動き）という動きです。12連の動作をつないだムーヴメント。1つの動作に1つのマオリ語を唱えながら動きます。

世界中回って教えてきていますが、一番覚えが早いクラスです。サムライの集中力ですね。（笑いが起きる。）

カラキア（祈り）の時間。

※お祈りの時間中、「コテヒ」（息を吸う）、「コテハ」（吐く）という呼びかけで深呼吸をする。

コーラリ棒を片付けて小休憩。

■映画『カズンズ』についてのレクチャー

○ブライア　同名の小説が原作となっています。パトリシア・グレイスという、ニュージーランドでは著名なマオリ出身の作家によって書かれました。共同監督がもうひとりいましたが、私はこの映画で監督と、俳優として出演もしています。

それまで女性映画監督というのは30年ほどの間に存在しなかったので、まさか自分たちが監督をつとめるとは思わなかった。この作品の前に3本のショートフィルムを制作していたので、それがきっかけとなりました。でもまさか、自分が俳優として出演もするとは思っていなかった。

素晴らしいマオリ女優のナンシー・ブランニングが出演予定だったが、撮影の2週間前に、ガンに罹って出演できない事態となり、「あなたがやって」と言われました。

『カズンズ』はマオリの3人の従姉妹の物語です。子ども時代、青年期、老年期の3つの時代での関係が描かれます。この3人が主役で、その他90人の出演者がいます。撮影の一部は首都ウェリントンで行われ、他には、ロトルアという温泉地として有名な場所で撮られています。

一般の方も映画には大勢出演しています。マオリ語を流暢に完璧に話せる人々です。セリフもたくさん書かれていますが、マオリ語には様々な方言があるので、どの言葉が正しいかという話し合いにも時間がかかりました。

映画で描かれるのはコミュニティーと家族の重要性です。従姉妹のうち1人の女の子が連れ去られてしまい、残された従姉妹と家族のみんながその子を探すために長い時を費やします。その女性は最後に路上でホームレスとして見つかります。その女性はマタという名で、予言の力を持ったスピリチュアルな人物です。

家族に残った2人の従姉妹のうち、1人はお見合い結婚を嫌がって家から飛び出し、法律家（弁護士）になります。もう1人が代わりにお見合い結婚をすることになり、最終的にマオリの家族の土地を守ることになります。

多くのマオリの土地というのが、政府によって（道路を作るなどのため）搾取されてしまうからです。弁護士になった1人の従姉妹は、土地を守るために弁護士として働き、同時にいなくなった従姉妹を探しています。

では、トレーラーを見てみましょう。全編は最終日、日曜日に字幕付きで上映します。その日本語字幕はコリンズ紀子さんの翻訳によるものです。

＜映画『カズンズ』のトレーラー視聴＞

○コーディネーター　ニュージーランドの良い所ばかりが映っているような美しい映像です。モコ・コワイというマオリ伝統の女性だけがする口元の入れ墨も、昔ながらのやり方でやられている様子が描かれていて、ニュージーランドが、マオリが詰まっている映画です。

■『プラプラフェトゥ』についてのレクチャー

それでは、もう1つ紹介する彼女の作品『プラプラフェトゥ』の方に移ります。元々は舞台作品ですが、これから見て頂く映像は、テレビ用に撮影されたものの抜粋です。

その前に、『カズンズ』にも登場しますが、様々なマオリのアイテムがありますので、その説明をスライドでします。

＜『プラプラフェトゥ』に登場するマオリ・アイテムのスライド紹介＞

○コーディネーター　『プラプラフェトゥ』の舞台公演は、1997年、後にタネマフタが参加することになるタキルア・カンパニーが上演しました。

○ブライア　「ファリヌイ」と呼ばれる集会場から影響されて『プラプラフェトゥ』を制作しました。集会場の中に「トゥクトゥクパネル」という織物のパネルが壁に掛けられてあります。その家の中でトゥクトゥクを編んでいました。

コミュニティーの中で生じた問題なども、この集会場に集まって皆で話し合うという役割もあります。集会場の中では様々な話が語られて、その集会場の中の装飾にもそれぞれの物語があります。

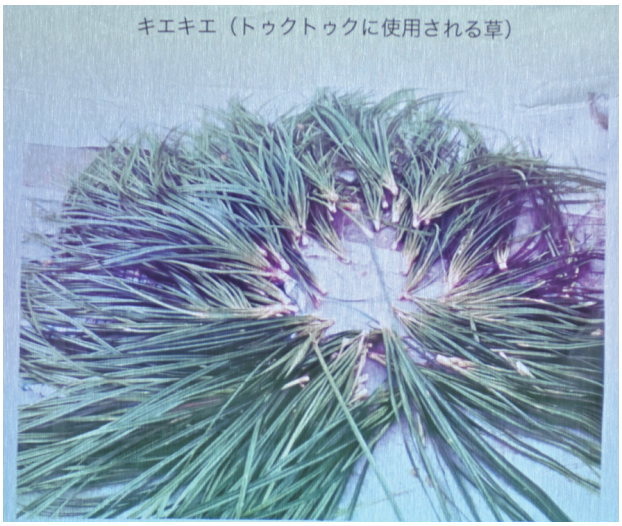
テコテコ（先祖の彫刻）

○タネマフタ　テコテコは集会場の屋根のトップに装飾としてある先祖の木彫像です。コミュニティーで一番主となる先祖です。

ファリヌイ（集会場）の内装

○コーディネーター　壁にあるのがトゥクトゥクパネルです。写真はワイタンギ条約というのが締結されたファリヌイで、装飾がとても多い。ここまで装飾の施された集会場は他にないです。

○ブライア　キエキエという植物の繊維をパネルの表裏で手渡ししながら織っていきます。このトゥクトゥクパネルを織る時には、物語を語りながら織ります。だから、パネルにはその時のストーリーも織り込まれていると考えます。そんなところから、『プラプラフェトゥ』のお話は生まれました。

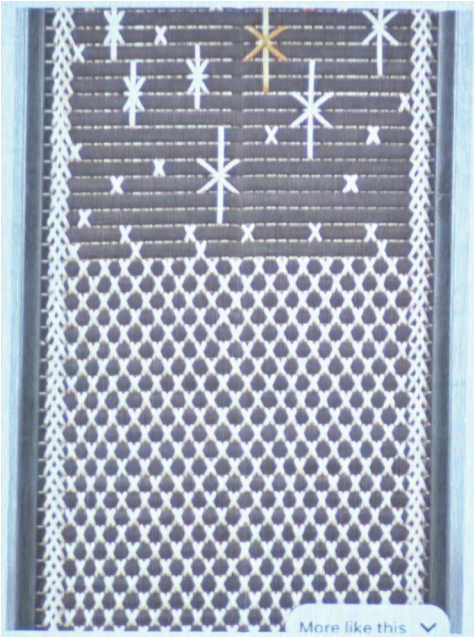


キエキエ（トゥクトゥクに使用される草）

○**ブライア**　実際は茹でて、乾燥させて、サイズを揃えて使用します。彩色が必要な場合は色を付けます。

○**ブライア**　織られた模様は「星」を表しています。いくつかの星は先祖を表していて、その下の模様が子孫たちを表している『プラプラフェトゥ』というパターンになります。先祖の魂がどのような旅をするのかが語られます。

小さな子どもが殺された、どのような真実があったのだろうか、と話をしながらこのパネルを織っていくと、織っている間に真実が明らかになって、その子どもの魂は星になれた、というお話です。



『プラプラフェトゥ』の
トゥクトゥクパネル

それでは、実際の舞台上演とは若干異なるのですが、テレビバージョンの『プラプラフェトゥ』抜粋をお見せします。

＜テレビ版『プラプラフェトゥ』のダイジェスト映像視聴＞

○**ブライア**　主演女優は、日本でも良く知られた映画『くじらの島の少女』（2002年／原題Whale Ride）の主演女優、ケイシャ・キャッスル＝ヒューズ。舞台公演でも彼女が演じています。

○**ブライア**　アワビ採りのおじいさんは、実はいなくなった子どもを探している。半狂乱のようでもあるが、真実が解き明かされていくにつれ、正常に戻っていく。おじいさんは、子どものことについて真相を少し知っているため自責の念にさいなまれていた。

バウア（アワビ）

明日と明後日、この戯曲の抜粋シーンのテクストをお配りします。紀子（コーディネーター）が翻訳してくれました。日本語の翻訳で演じることで、マオリ語、英語のテクストとどのような違いがあるのか、見ていきたいと思います。

○**参加者**　アワビに霊が宿るとかそういうことがあるんですか？

○**ブライア**　マオリの人たちは、アワビを食べるのが大好きです。しかも、アワビは岩がごつごつしたところでないと採れないですよね。

○**コーディネーター**　マオリの装飾品や彫刻など、アワビの殻を使用したものがたくさんあります。

○**参加者**　アワビは生で食べるのですか。

○**コーディネーター**　殻から身を取り出し、叩いて柔らかくしてから薄くスライスし、ソテーして、オニオンとクリームで食べるそうです。

○**ブライア**　本当は亡くなった子どもが引き継ぐべきポウナム（先祖から代々引き継がれるもの）を、第三者が奪って持っている、という話が出てきます。それぞれのファミリーにそれぞれの物語がある。その形にも意味があります。

ポウナム

○**タネマフタ**　今日紹介したコーラリは短い練習用の棒でしたが、本物の「タイアハ」

はもっと長い棒で、その先端には、私のポウナムのような装飾が付いている。素材は、伝統的にはクジラの骨です。

■講師の活動歴の紹介

○コーディネーター　それでは、タネマフタとブライアのこれまでの活動歴についてご紹介して、その後、質疑応答へと続けます。

○ブライア　手短かにお話しします。学生時代から新聞記者をめざして勉強し、書くことに執心していました。同時に母が演劇好きだったこともあり、いろいろな作品の観劇に連れて行ってくれました。新聞社に勤めて最初の仕事が、マオリルーツの劇団へのインタビュー記事の執筆でした。

インタビューに行った先の劇団で、1人俳優が足りないからオーディションをしていることを知り、インタビューのことは言わずにオーディションを受けた。劇団で役をもらい、劇団のためにライターとして書きました。次第に長い作品を書くようになり、そのうちの1本が先ほどの『プラプラフェトゥ』です。

その後、テレビ番組の作家や、映画の脚本を書くようになります。そんな中、マオリの女性として監督になる人がいない、またマオリのストーリーを書く人がいないということに気が付いた。マオリ女性のメラタ・ミタという監督がいたが亡くなってしまいました。自分は3本の短編映画を撮り、その後『カズンズ』を撮ることになります。今は主に作家と監督として仕事しています。マオリ出自の女性監督も増えてきているので、これからはもっと彼らも活躍していくことと思います。

昨年、アイオワ大学で、作家の国際レジデンスプログラムに参加しました。35人の作家のなかに日本人の女性作家もいました。

○タネマフタ　プロジェクターを使って話します。元々はダンサーとしてスタートしました。マオリ出身者たちのカンパニーで、4歳の時から、伝統的なマオリのダンスを習い始めました。

6歳の時に姉（妹）がバレエを踊っているのを見て、自分も舞台に立ちたいと思い、バレエを習い始めました。ニュージーランド・スクール・オブ・ダンスという教育機関でコンテンポラリーダンスもバレエも本格的に習い始めた。自分のマオリとしてのバックグラウンドを意識し始めた頃だったので、コンテンポラリーやバレエの中に、マオリの伝統的な要素を取り入れたいと思っていました。

ロンドンに行って、いろいろなオーディションを受けるなか、アルゼンチンのカンパニー、デ・ラ・ガルダ（De La Guarda）と出会います。シルク・ド・ソレイユの次くらいに大きいといわれるサーカスカンパニーです。1800人の中から3週間のオーディションでロンドンキャスト50人を選ぶものでした。1800人の中から残るには、どの瞬間も最高の自分を見せなければならない厳しいものでした。天地逆さまに吊るされているようなショウです。

○実行委員　（補足として）デ・ラ・ガルダは日本公演も行っています。2003年に『ビーシャ・ビーシャ』というタイトルで公演しています。

○タネマフタ　そのプロダクションに入ったことで、“目覚め”て、これからどんなことをやっていきたいか、ということが自分のなかではっきりしました。どんな凄いショウだったかということを、2分位のビデオクリップでお見せします。

＜デ・ラ・ガルダのビデオクリップ視聴＞

○タネマフタ　このプロダクションで、打ちのめされた感じでした。劇場という場所でどんなことができるのか、ということを改めて学びました。そこで学んだことをニュージーランドに帰ってどんな風にマオリの要素を入れてできるか、と考え始めました。

デ・ラ・ガルダで、ロンドン、ラスベガス、ソウル他いろいろな都市をまわり、ニュージーランドに帰国して、そこで培った経験とそのショウの要素を取り入れて制作したのが、『Māui – One Man Against The Gods（マウイ – ワン・マン・アゲインスト・ザ・ゴッズ)』です。

マウイとはハワイのマウイ島のことではなく、ポリネシアの島々にある、広く太平洋の祖先で、タイ、ハワイ、西アメリカ、ニュージーランドの島々全体におけるマウイを指します。それらの島々を巡る物語です。これからその作品のビデオクリップを見てもらいます。デ・ラ・ガルダの要素にマオリの要素を融合させたマオリストーリーのミュージカル作品になっています。

＜『Māui – One Man Against The Gods
（マウイ – ワン・マン・アゲインスト・ザ・ゴッズ)』のビデオクリップの視聴＞

○タネマフタ　今度の土曜日にこの作品全編を見て頂きます。日曜日には『カズンズ』の上映があります、ぜひいらしてください。

＜質疑応答＞

○**参加者**　私は、デ・ラ・ガルダのショウを2001年にニューヨークで見たのですが、その時、自分も若かったけれどあまりに衝撃的で、一緒に居た友達もトラウマになったくらい。エネルギーが強すぎて、私も少し怯えたのだけれど、どこかで惹かれる部分もあった。まさかその話をまたここで聞くとは思わず、びっくりした。

○**タネマフタ**　とても興味深いショウです。韓国で上演した時はニューヨークやロンドンと比べると保守的なコミュニティーでしたので、多少内容を変更したりもした。

○**参加者**　質問ですけれども、天井から吊るされているプレイヤーが下にいる観客の若い女性を連れ去って、2人とも叫び合いながらフライングして行ったんですが……、その女性は短いスカートを履いていたので、観客全員に下着も見えて、すぐ側にいた人だったので、お願い、私のところには来ないで、という気持ちでした。

○**タネマフタ**　その女性は観客役のカンパニーのメンバーです。

○**参加者**　（驚き）えっ、20年以上ずっと疑問だったこと、が（今解けた）。

○**タネマフタ**　日本や韓国ではできないけれど、ロンドンやニューヨークでは下着すら着けていない人もフライングしていた。それも、このカンパニーがショウでやることとして、また特別なことの1つでした。

○**参加者**　講師のお二人は、ニュージーランドで活動されていますが、同じニュージーランドのマオリとしてご一緒に仕事はされているのですか。

○**実行委員**　講師を選定するときに、お二人が『プラプラフェトゥ』という作品を通してご縁がある（戯曲を書いたのがブライアで、上演したカンパニーがタネマフタが後年CEOになる、タキルア・プロダクションである）ことは分かっていました。というのが前提です。

○**参加者**　お互いを知っていたのでしょうか。ニュージーランドにマオリのアーティストはどのくらいいるのですか。

○**タネマフタ**　ニュージーランド総人口500万人のうち、17％がマオリです。（※編集注：そこから計算すると85万人）

○**参加者**　マオリ全体という意味ではなく、舞台芸術の分野ではどうなのですか。

○**タネマフタ**　俳優が最も多く、映画、演劇で5000人くらいでしょうか。

○**参加者**　マオリの方というのは、何をもって「マオリ」と称されるのでしょうか。

○**通訳補**　その部落によっても異なるのですが、25％の血を引いていなければマオリとは言えないということになっています。

○**タネマフタ**　今変わりつつあるのは、ファカパパ（家系図）をできるかぎりたどっていって、最も古い先祖がマオリであると証明できればマオリと言えることになっています。
僕の場合は、クォーター（25％）です。父方が英国とスコットランド、母方がマオリと英国の血縁です。

○**参加者**　マオリであることのオリジナリティーは何だと思いますか。

○**タネマフタ**　マオリかそうでないかは大きな違いがあります。

○**コーディネーター**　ヨーロッパからの移民の人たちは、パキハというのですが、マオリとは全く違います。

○**タネマフタ**　外から入植してきた人々とは違い、マオリにはもともとのコミュニティーがあります。コミュニティーの中で生きていくということは、どこにも属さないでいることとは考え方が違う。入植してきた人々は、全てではないが、個人のエゴで何ができるかと考えるが、我々は今持っているものを持ち続けようという考え方の違いです。

○**実行委員**　定時になりましたので、いったん区切りまして、ここで帰る方は退出して結構です。お時間の許す方は、残っていただいて質疑応答を続けたいと思います。

○**参加者**　食べ物について質問です。アイヌの資料館などに行くと、魚を突く銛とかありますが、マオリの人たちはそういうやり方をしたりしますか？

○**タネマフタ**　銛はやらないです。魚を1匹ずつ釣ります。
　とても美しいマオリの物語で「海の妖精」というお話があるんですが、海で網を使って魚を捕りますが、海の妖精がその魚の居場所を教えてくれて、豊漁になるというお話です。

○参加者　さっきやったコーラリのムーヴメントですが、やった後、凄くエネルギーが自分の身体に残ったと感じました。あれはどういう儀式なのでしょうか。

○タネマフタ　いいですね。コーラリはマーシャルアーツ（武道）の一種ですが、気功とか太極拳といったものと同じようにエネルギーの循環があります。「エヒ」と呼ぶエキサイト（興奮）に似た感覚、また身体を巡るエネルギーという概念があります。

やった後に、気持ちのいいエヒが残ります。コーラリでは、抑えたレベルのエヒ、一方、「ハカ」の時はより激しい、高いレベルのエヒといえます。敵に対して、どちらのやり方で攻めるか、良く相手を観察して使い分けます。

今日のセッションでは、コーラリは45分しかやっていないけれども、お祈りをして先祖と繋がって、また皆さんのエネルギーが一緒になって、上手くできたのだと思います。全体が1つのユニットとして上手くいった。皆がバラバラだったら、そのように上手くはいかないです。

○参加者　コーラリを大切な儀式の時にやるのかと思うのですが、本番はどれくらいの時間やるものなのですか。

○タネマフタ　今日やったコーラリはエクササイズですので、それをそのままセレモニーでやるということはないのですが、正式なセレモニーで行うようなものは、そのセレモニーの質や目的などにもよるが、長くて6～7時間やります。

○参加者　6～7時間やるセレモニーはどういうものですか。

○タネマフタ　2年に1度のお祭りがあるんですが、そこで誰が一番上手いかという競技試合があります。グループごとに代表を出し、またその人だけでなくグループ全体でも競い合います。

○参加者　6～7時間、続けてやるんですか。

○タネマフタ　各30分ずつ6種目を行います。

○参加者　（英語での質問、日本の文化についての問い）

○タネマフタ　前の妻が日本人だったので、以前仙台に訪れた時、観られるものは観ようと思って能なども観たが、観ていてとても瞑想的な感じがした。言葉も理解できないので、観ているうちにある種のトランス状態のような感覚になった。

○実行委員　それでは、本日はここで終了としたいと思います。長時間、ありがとうございました。今日だけご参加の方もまた明日以降、ご興味がありましたらぜひご参加ください。お疲れ様でした。

○通訳者　補足します。先ほどの『カズンズ』の時の話ですが、ブライアは出演のために3度オーディションに行きました。つまり、監督であるにもかかわらず、出演者としてオーディションを受けた、ということです。興味深いのでお伝えします。

記録：山上　優
写真：おおたこうじ